法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

無人嶋談話・中

曾槃

無人嶋談話

中

無人嶋談話下卷

薩摩侍醫　曾槃識

○地形

こゝ漂流せしもの。遼洋の船にて漕いつゝ漕いつゝ孤島ハ東京の南洋。一孤にて長方にして。ちょうど圓帽の如周圍五里ばかり二星ばかり　其高九十七八丁　四周の岸ハ切立ちたる岩にして奇異極の景色。

実に国土の絶景なり。其先に小島あり。是熊野の地なり。
此処先是を踏み、行くこと五六町、岩洞あり。
是を見て先に西崖に二洞あり。
千尋の海中に突出す。
上に鍬崎の。あるを攀登。怪石の栖居する所なり。
小崖に入れば。崖に沿て小坪あり。峻崖十
余丈の下に。多羅の潮音。駭浪の声。
聴かんと身に近き。小洞穴あり。洞穴の深
さ。これ新宮石洞なり。
未だ究めず。然れども西の
方に似たり。ここを出て。九四五丁許

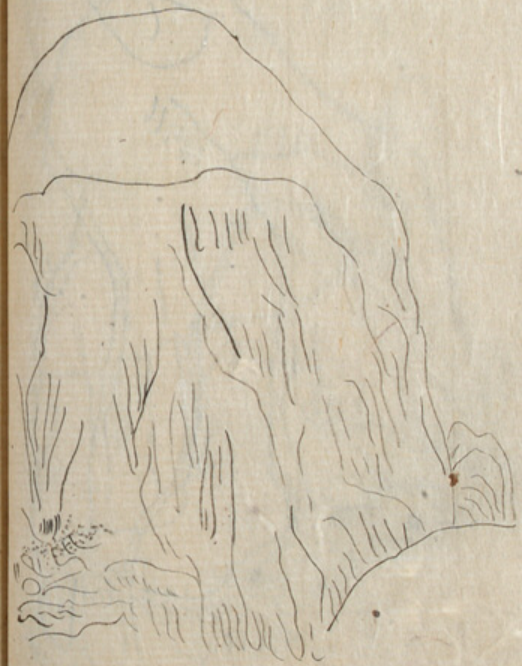
の石渡り。其先に小島あり。是熊野の地なり。
九四五丁
左右の絶壁。刺ぬ。元石あり
捲き上り南に。阻崖あり。沿て行く。故道なり
洞穴の所なり。千頭あり。惟石崎廻り小
人跡のいたる所なし。其中奥深く。其頂
を望む。三尖の峰聳列す。千年経る頃
西の崖に。猶復愈のなして。三年間の深窮
しかるに。岩礁頂聳。蓋しこれ
時に大豚佛潭。実西方の地なり。
其夫峯北
麓に南へ巡る。二道の小石
長四
十丁許

[illegible]
谷のさまなり。一大洞有
[illegible]
洞内[illegible]南崖[illegible]
巖[illegible]
[illegible]
[illegible]

怪鳥栖此
此谷怪鳥多栖
故地
故地

全圖
西
土佐及八丈島等流住此
此谷怪鳥多栖
怪鳥栖此
新地

北面



○方位

夏六月八日より無名の島　正南七里ばかりなり。櫛
ばかり西北の陽ふ出る。慎みて敬まき　陽ふ
[illegible]
[illegible]　同月十三日。青ヶ島ふ
[illegible]　元文源義の口伝ニ
元文四年三月十日より。同二十日ニ　九三里
計を過ぎて五島あり。[illegible]人の島なり。同二十
九日此所の名ふ[illegible]。同年四月二十七日より
[illegible]　[illegible]　久島　[illegible]の
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　同二十八日より一島新をこしたり。同月

悪しく見えし月ゆゑ、八丈島へいたる。坊ノ山船碇泊
間五六日　八丈島へいたる　海上のり程をよ
島の方位は。羅針にて　二百里ばかり
島谷茅の地をうる。延宝三年閏四月九日
出船　八丈島を第一番　同夜子の刻
ふいうち　南十八里　対馬小三十五里　同十日　夜四十里と
して岩島あり　同夜二十里。同十一日晝四十里ゆ
して島ゆく　御船　流笑するに周四三里ばかり
る二丁程　小木ばかり。黒ばえる栖宿とよ
ばる里　八丈島　百十里　見さの島は。世ゆく　無名の島

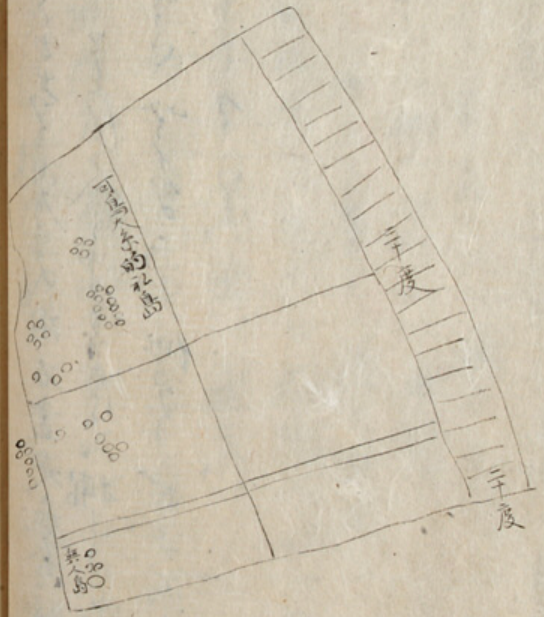
なるべし。今佐渡を掛帆すべし。日向を辰巳の
うちに行をすると程は二百里のうちふと
ゆく地神ふうとう山島　黒に。八丈北南流紙地
東京人の地。二十七八度のうちふかうう。六島一
業の図の八丈をさすこと　斜に北四五度　東北の星
程ばかりなる地三十里を　出来　星ゆく。北辰巳の
ふいうち。今佐渡すべの佐渡と云ふ向星程をよ
島名を相分ケ　なりはい。彼の名島は　ゆく
うにはい六島一業の図　ゆく　ゆくゆくゆく八丈と天
地の間今義経蠱の地　ゆく。これ霧浩考

[illegible]の行ひ尚後の考案をまつ。此島ハ[illegible]ハ[illegible]
後無人の島にて名称なし。源氏ハ和ふ[illegible]鳴
唱なるべし。青島の六人單ふ[illegible]なるべし。[illegible]
[illegible]ハ拙ふ学ふ[illegible]。六人島ハ、小笠原島と
[illegible]。此島と[illegible]。清の沒國の新齊洲
ふ[illegible]。海水彭湃ふ[illegible]。彭湃流波[illegible]
ハ。[illegible]ハ。水[illegible]
[illegible]。[illegible]人臺灣ふ[illegible]
ふ萬ふ生[illegible]忽大震一声を[illegible]人[illegible]跡[illegible]
[illegible]。[illegible]ふ[illegible]。方ふ一[illegible]島ふ

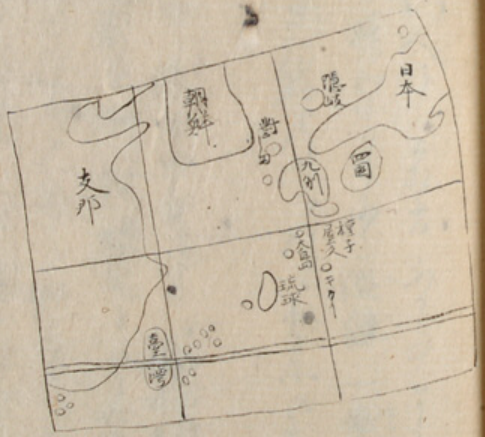
[illegible]ふ岸上の[illegible]石畫是赤金怪鳥[illegible]
人[illegible]人[illegible]。[illegible]食
ふ。此[illegible]ふ[illegible]島ふ[illegible]姑[illegible]風[illegible]
[illegible]

西洋地球畧圖 南北正位

東



西



○冬 歳寒の比といへども[illegible]水[illegible]
[illegible]ばかり 勝れ[illegible]多 徳[illegible]一襲[illegible]人
八毛衣一襲[illegible]さ[illegible]。たゞ[illegible]の蒸頂[illegible]
[illegible]の[illegible]

○四季 青竹多く[illegible]。中山傳信録に
[illegible]つゝ麗彩を[illegible]緑眼[illegible]共[illegible]を和
[illegible]。是を再び[illegible]の[illegible]八[illegible]の
[illegible]。洞穴を[illegible]空之[illegible]穴をのすまし
[illegible]。蚊蝿[illegible]一家の[illegible]
[illegible]二月に[illegible]。[illegible]羽[illegible]の[illegible]血を[illegible]

七八月相対す

風　大地とも云ふべく　但し本文大風吹く月の記
八月に吹く颱風　抑清の玉漏洋の香祖筆記
に云ふ臺灣風伝他海とは云ふ風大吹くなり
しものを颱と云ふ　抑　楊作卷云　颱當小颶小作　香貝　嘉禾
颱とも云ふ　颶は俗に作る　修文也　抑連日や
は正二三四月吹くものを颶と云ふ　五六七八月小
吹くものを颱と云ふ　九月は小風と云ふ　抑
颱は　連日吹くなり　これ本邦の風伝臺灣と較
抑長崎は小倉出　二十二度ばかり

○氣候

暦日　正月を芒月候を云ふ　芒とは稼
穡月を云ふなり　抑正候を云ふ　日候は
月を十分とさだめ　抑　晦朔は保なり　抑
享保の風記に　抑　朔　翻　晦　の
なり　抑　云ふ　抑　抑　抑
抑　春　三月　抑　日別の九月の氣候
抑　日別は小倉出　十二度　抑　抑　日別の九月
関東の八月小倉

夏　六月ニ入レバ。大雨ヲ降ラスコトアリ。
行夏ニ入ラントスル。旭日ヲ以テ。四季の
日。中天ニ入ル。炎暑甚シク。人ヲシテ
躍抜ス。蓋シ日ハ。赤道ヲ経ル。二十三
度ニ行也。今此年ハ蓋シ二十六度の
中ニ行ヒ。ヲリ不ル無温ナラントスル。日ニ
度

秋　八月ニ入レバ。大雨来。秋の二月ニ入ル
時ハ大氏大北ヨリ来ル。此時候ハ
北ヨリ来。北流の風赤ヲ

雨　多ク此ハ時ニ雨ノ降ル。
多クハ晴ル。若シ雨候ヲ
ハ。四日ヲ以テ。半ハ降ル。
降ル。是ハ石碑岩坎の北の方ニ
雷　夏秋の交鳴ル。
ヒトシ四季ニ
震　つねに雷鳴ル。
此年ハ。震動の声
十度のうち。一度震動

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ろハ。ゑとなり。葉となり。延となり。まつ草荷
小ひてりりゆ共利とに加也

隨手抜　こまい　大爲　大名草。抑。すかまふい酸
草といふ名ハ所記なり。漢名酸模。陳藏器也。慎
て和大黄といえり　和大黄てよりハ漢名羊蹄俱
本草綱目ふえんなり酸模羊蹄一名二種ふ酸
模ハ葉裏小ふて莖赤。其味ふる強。かけくい茶屋
の旱地ふ多ふ。羊蹄ハ葉大ふて莖ふて根黄
色味濃ふ喜て湿の地ふ生ず。ふるに細目ふ乳
水ゆの強ふ　いふものなり。源氏ふ　の煙

草ふ　ふ　ふ　

保好又星　薩ノ方言なり。其草葉の形ハ[illegible]
用のごとし

波羅　青の島土名なり。海名図土紀ハ[illegible]
[illegible]。此海苔の一種なり。[illegible]裙帶菜の
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。硬[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。

異本　口供ハ[illegible]。[illegible]ものを[illegible]
[illegible]桐俗ハ[illegible]。[illegible]云
薩ノ方云ハ[illegible]。其[illegible]屈曲[illegible]。一丈ハ[illegible]
[illegible]。春の[illegible]。[illegible]。[illegible]。桐ハ似

多[illegible]。[illegible]。碎花を[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。桐ハ似[illegible]。ハ[illegible]山に[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。白[illegible]。[illegible]。此[illegible]
[illegible]。其嫩茎を[illegible]皮を剥ハ水ハ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。其梗ハ[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。

るに。此樹を刻しるすに。本草綱目に謂る所の
樹なりと。又りうきうに。呉茱萸。りうきうの人即樹を
とし。尚後の徴あるべしの
米虞美　薩摩方言なり。即大方ゆふ　春ごとに咲名
胡頽子　本草綱目にえんらう。樹の高僅小五六尺斗
其圓八五六寸ばかり。葉ハ榎子に似て　面青　背白其
実ハ三五個つゝ　秋ふる。なり　是　長崎にて
諸生とゆふ。こゝ本朝にも伝はるとゆふ。ひろ国
の伝ひなり　根にはなをいゆる。伝とゆふなり
其実赤くついゆ　ゆをうらて。うらゆふこと

豆藤。こゝふことゆふ。俱小八分　五名ゆふ　樹の
ゆふ　尺　茎ゆふ。紫ハ。枇杷に似て　葉。夏やうらつく
冬月のゆく。春月まく　新芽を発ハ　本末の交葉
写ゆふ　稀ゆふ　小蝶花を刻る。小ゆふ　ハ
ゆふ　ゆふ　井ゆふ　ゆふ。八分　四島の　紀
もこゝ此樹を載　桂　直中ゆふ。ゆふ二ゆふ　小
ゆふ。本ゆふ　軟ゆふ。其樹ハ用ゆふ　ゆふ　柳
ゆふ　仲春　稀を　櫂て　小花を刻ゆふ。李
葉ゆふ　其形　実本小似て　数十連　徳に越
せて　黄ゆふ　豆藤ゆふ名。　ゆふ　今

以前の形なると確當の清名なり。いまこれを
字奥比須　國史に見えたるなり。抑の淵鑑類函
に顧況山記に云。山鳥鳥鴣の如しと。蒼
三月に鳴くに声を失ふ。春起なり。
鳥いまだ共。春去り茶を采人なり。
鳥と云ふこれなり。
鳥なり。島中にあるなり。四季つねに啼く
冬月に声を麗鳴なり。
抑に今唐山の人呼て紫鶴鶴と云へり。
花吸薩摩にて言也。関東にて眼白と云。
色白故なり。清名備眼吸常氣縣也。
と島中山麓にあり四季なり。和名抄云
燕　和名抄に雅集注に云。鷰を
と訓ず。抑本草綱目に越燕。胡燕。石燕の三
種あり。おもふに和名抄の鷰は。蓋即越燕
なり。朝燕は。
色と云ふ。今俗に
秋の比に来る。
なるべし。
徐保元　中山傳信録七月令に云鳥来と云せ

[illegible]

鳥　[illegible]

[illegible]

[illegible]

掘者〻卵を産上に浮ぶ海鳥漁人魚を捕
餌とする海鳥漁工死ぶ時声聴ぶ例ちとしく
卵のかたち比。春の末〻雛かへる所黒色ぶ
して春色羽を換。夏の比と四ぶ所花ちり
山人を見ぬ。ぶ山谷来ぶ流ぶ者多
百里明ぶ〻〻。数の〻〻。当の島ぶ水手三比
〻捕と云ふ。〻〻れぶ。扨ぶ新斎偉ぶ後
性鳥人を見ぬ。人ゆのぶ。捕〻〻
ふと云ふ見ぬ〻〻ぶ〻ぶ〻ぶ〻
〻扨ぶ元の陶九成ぶ輟耕録ぶ。信天翁と云ふ

鳥ぶ扨ぶ部左抵信天翁ぶ又本草綱目ぶ見ぬ〻〻ぶ鴛鴦の信ぶ見ぬ
又ぶ扨ぶ〻〻ぶ為信ぶ洋の太夫一名ぶ海ぶ鳥
〻〻ぶ。信天翁と云ぶ。今扨ぶ扨ぶ。
扨ぶ魚　八丈島ぶ名ぶ。九州西国地方ぶ扨ぶ
ぶ鯛と云ぶ。関東〻〻黒鯛と云ぶ。一説ぶ
て海名ぶ頬魚ぶ〻〻。明の何喬遠ぶ閩書南産
志ぶ云ぶ。鱸ぶ〻〻。ぶ〻ぶ黒色ぶ〻〻
産ぶ〻〻〻〻ぶ。ぶ比ぶ。七八ぶ〻。天竺
ぶ比ぶ四ぶ〻ぶ。海鳥ぶ花ぶ云ぶ十月ぶ
四月ぶ来て〻ぶ〻ぶ。〻〻ぶ〻ぶ〻ぶ

四十五年を経て的。鯉鮒小似る有り[illegible]
[illegible]。大なるを。鯉と云。小なるを 鮒と
云。[illegible]四海と云。此魚葉菜[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]民[illegible]
沒古 薩[illegible]言う 源氏名つき赤魚と云。実[illegible]
[illegible]赤目[illegible]と云魚の[illegible]。[illegible]
[illegible]鮮[illegible]。肉[illegible]。[illegible]
鄭[illegible]長[illegible]菓[illegible]詳注に載る[illegible]。[illegible]
[illegible]。海[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。

[illegible]。俗名石磯。図書南産志に[illegible]。[illegible]
[illegible]殻。一行ハ肉[illegible]。大小[illegible]低五色斑紋。一説[illegible]
[illegible]。大色[illegible]一すはう[illegible]云。
海島風土記に。味[illegible]小似[illegible]。神田玄泉
[illegible]日東魚譜に。[illegible]城[illegible]。[illegible]
[illegible]。俗に背[illegible]
所産城[illegible]図図南産志に[illegible]
志陀多美　八丈島土名[illegible]。和名抄に。同貝[illegible]
[illegible]。俗巻[illegible]用[illegible]

[illegible]。和名抄に正蠡に。[illegible]。俗名蝸蠡。本草綱目に[illegible]
[illegible]。[illegible]。小螺[illegible]。人[illegible]
[illegible]。[illegible]天皇御製の
歌に。[illegible]。[illegible]。大石に[illegible]
[illegible]。今[illegible]。和名抄に崔民食経
[illegible]。甲蠡[illegible]。[illegible]。百玉
の蓋[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。本草綱目に載る。老君[illegible]。俗に醋

今より。元和元年に　　古昔の名称。儀式に
洪荒の日に　　共田想を
改元世に市井に　　有りしなり。稍大なり。
又遠物柳の形を見し。九歳の時巖窟
の中に住。[illegible]。五六年。[illegible]
蠅　元亨釋書に。[illegible]

翌年　元亨の教に中[illegible]
中[illegible]に[illegible]。塚なり。[illegible]
八燒なり顔野　王玉篇に[illegible]。名物に[illegible]

洲に人多く[illegible]と呼林間の害を[illegible]
塩　炎暑のはれしきに。濱海の大石を燒の如
し。[illegible]潮嘯其所に翻騰し。潮水石四のうち
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
即自然塩なり。源氏[illegible]食料に供[illegible]
物　亜弗利加海島唱布歌尓便のうちルラ・コ
[illegible]島を[illegible]沙利島[illegible]地[illegible]
[illegible]。海岸の地に張[illegible]。海[illegible]七十
箇の大海なり。[illegible]の潮大海
[illegible]

塩は石塵芥の属なり。それは雑物本草の人参を[illegible]至上品白朮といふ。其地の塩を制する法は塵積もるべし。[illegible]

[illegible]氏の中に[illegible]此法[illegible]これ一法なり

（武院ハ大野今桂川氏の地名）

軽石　此二種は漂民又多年[illegible]。一八潮清の激徒する[illegible]。[illegible]貫徹[illegible]船を磨[illegible]これなり。本草に載る所の浮石なり。一八火山の燃石海中に飄[illegible]暦年漂流[illegible]形の地。其質粗此即山中の石なり。海中に浮[illegible]。[illegible]方皖桐[illegible]あり[illegible]激に青[illegible]焼く

石灰　蛤蠣石磯の殻を焼く灰とする。北即蛤灰

蜃灰と一種なり。[illegible]海石を焼く灰とする。俱に

塩水に和して泥となし、小地及盥水桶を塗る。又

船茹の外とする

○試餌

稲　享保漂民の口供に[illegible]これは土島の[illegible]漂到せし米色のごとく粗米ありしと。はを[illegible]の土

[illegible]。[illegible]一歩。[illegible]二歩を

う種々さまざまに成実を收とる又
同じの記風小槙ちく稲。一年と四月。之
ふしのるいふ。時ふを　二色ひとつ　又六株
をはとをせり。保系の時ぞ年を載来とふ
晨草　さまざまにしるしとしるしふ。これまるをなるを
世稀しせーしるしるし八丈ふくもも手稀しとは
ををを行法小似ーををを高光澤ひ。ふ。辛夷の
紅ひ。根魁をひ。冬月深紫とは四月つふ
ふひ。大和本草ふこれを蔵草とは偽ひ
蔵草ハ本草個月温鼓樹の附銀ふひ。其鉢

蒿ひ似ふとひ天を鉢蒿の苗を蒿ひ。ひ
ふをひ似ふををもひ
都波光ひ。ふを名の食料ひ。都波ハ通俗
の稗ひ系歌参ひて。ふひ。秋の比皇を
ふて第ふを通俗名蒙共唐の顔師古注意乾
章ひ天ふ

隨牟板（スムバ）

真方曰海島風土記所画

茅（カヤ）

海島風土記所画

波板（ババ）

海島風土記所画

延別（エベフ）圖

海島風土記所画

豆藤 マメフジ

海島風土記所載

安加伊乃木

合上五異木也

ササウ
左々魚

ミラフ
志良夫 漂人所自製

海亀（ウミガメ）

没古（ボウコ）

農草　今以活本看所図載也

瓏良美上　志跡多美下

○洞穴

[illegible]。西崖より二洞あり

北崖より三洞あり

其洞口は東方に

[illegible]元年の秋一洞を鑿[illegible]年一洞を

[illegible]。其洞は東方に[illegible]一洞を[illegible]。新洞都[illegible]三洞[illegible]

北崖より[illegible]。東二八東方に[illegible]二八西方

より[illegible]新改都[illegible]八洞[illegible]

共廣さ。四方凡[illegible]尺。[illegible]六七尺[illegible]七又

時ありて、うふ黄泉とりき。一洞ありて四方人を
うけのく、吾うこうふ石門をたて、蓋は構
つくり小池をとりけ、晨夕をいとなみ、みハ洞口
小黄蘭をうけく、春風吾而をしのき、春うり秋
の季をハ、幽ほうをかくうし、ほうの黄を摘
てこれを遊つくり、鳥洞を遊く羽をうれ
天照大神を称ほうの蓬をひとりてあり
の時トる小杖の漂川を拾うう。それをふうう金
昆沌杖ほう。即神酒を作りて、即きこれ
を飲し、金昆置杖ほう。中還の事をいのうしなりと

後別之弁奉しやう
徒一巻ようる
今この岩洞は住かを
天津磐戸ほう
さいかのまとをとる
似てつるる
し浦ようる
ようる
弟尾
佩之
朝夕ほう
時伸
ようる
之を
思ようる
世ほうを
厄還の人ようる
拙ほう西崖に一洞ほう崖の二洞ハ、これ自
然のまハ。こうしてうるひハ共に隠蔵のもの
てつくるまハ。今ようえて
観音
之を
尚ようる
近世
出雲の士ほう
蓬を
ハ報恩
厄還
感指
揚

外卷文集ニ云ル山洞岩穴ニ穀ヲ[illegible]
ヲ星脯ト云ル。人ヲ見テ月腦トスル[illegible]
ヲ洞穴中ニ。[illegible]。ヤ[illegible]。[illegible]
[illegible]

○食料

信夫郡　秋八月の比より、夏五月の比まで、小米
小豆を捕て千日を送る。小麦ばかり。
卯もちゐる。千日の味噌、麦ばかり。鹿多く
[illegible]卵のうちにひ。鷺小鳥ばかり
[illegible]
[illegible]魚の市に入る如。山伏修ふ云方校の
図魚ハ衣魚ヲ[illegible]。郡濱ハ海ニ魚皮を[illegible]衣
[illegible]。魚ヲ水鳥より青愛楊換ハ補注ニ魚卵
鷗[illegible]均[illegible]ハ云云服の図、奥ヲ衣鷗ヲ食ト

これ代の図もまた[illegible]

土佐の図のごとし[illegible]

捕生食しまたは[illegible]

[illegible]

[illegible]

つのごとし[illegible]

[illegible]

[illegible]

石磯　[illegible]

海苔　[illegible]

紫菖　[illegible]

天水　つゆ[illegible]。石鏹岩坎小池水槽小野[illegible]。大昇の[illegible]。両降の神をしのぐとなり。[illegible]

鹹水を飲[illegible]

[illegible]

島[illegible]尚太京[illegible]　九天地の月日

月は照除する[illegible]

[illegible]

[illegible]

服飾

毛衣

信夫縁の[illegible]毛を。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]

佩刀一把 日明の[illegible]

羽扇 大鳥[illegible]

諸葛亮の三軍を指麾する白羽の扇[illegible]

草履 [illegible]山[illegible]人[illegible]

[illegible]

念珠 漂至の[illegible]

[illegible]

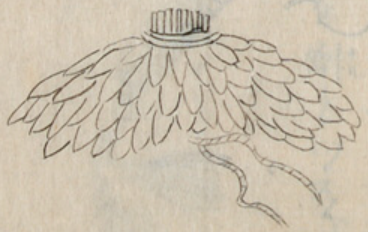
[illegible]

草履 [illegible]

[illegible]

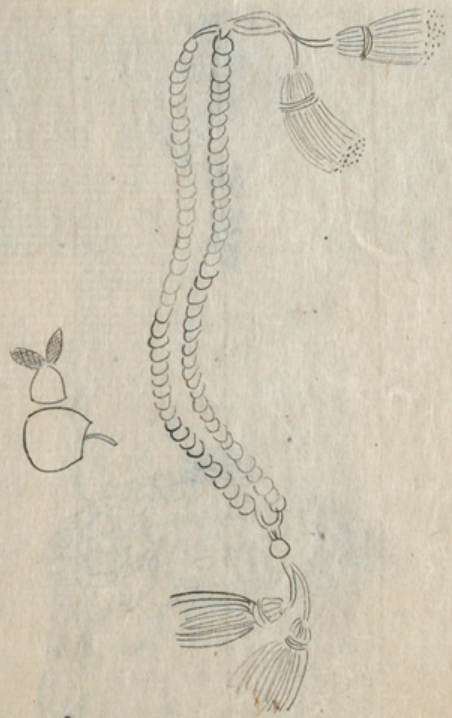
[illegible]

羽扇（バウヤハ）



羽衣

念珠



器財

刀一把　是薩州方言山ゝゝゝ云もけいゝゝ形佩刀の如且短山林一人その佩ゝ。荊棘を剛とゝゝ。

曲尺一條

錆子二柄　一柄ハ。敗損するもの

鋸一握　長一尺餘

鑿三握　一握ハ。不用にゝゝ

斧二柄　以上六種ハ日用のもの後ゝゝゝゝ

風箱　坐　口供小　人七ゝゝを製とゝゝゝ

と其寸ハ　八五寸ゝゝ　其造法をゝゝ

えるゝ。遂にはたらかるゝといえる。廣板の四
端ハ。故綿をくるまるる。火筒ハ螺戸を渡るゝ
たるゝるゝといえる

● 千仞一握

● 鐵算子 一握　此濃を漆く算子となす。凡船材を
繼ぐ。こゝのを打のかしらを曲くゝる。是器なり
落ゝるゝ作ふ。工作ふ。係打砥ぐゝる

● 釘鑿 凡大打ゝるゝ。先ゝこの穴ゝゝ孔を穿
落ゝ打を孔といふ。落ゝゝゝ洋ゝ

● 鐵槌 一柄

● 屠刀 各ゝゝ。おゝて本度を剥ぎ蒲と云ふ。

● 錐一條

● 墨壺 一本

● 鐵釘 以上八種ハ在島の作 新小製 鐵治ゝ作ふ
ゝい事久七其生とゝゝゝゝゝゝゝゝ

● 鍋二口 大坂船材の作ゝの一口 日刈船材釜
しの一口此ゝ一口少ゝ換後一ゝゝゝ。洞穴
中ハ藏ひしゝゝ

● 釜一口 大坂船材釜ゝゝ

● 椀 漂到の板材を伐ぎ一頭を火ハ焼。勾刀ゝて刻
ゝゝゝゝ。板四ゝゝて家とハ。勾刀ハ決打なり
磨ゝて利ゝゝ

いえり

● 盥水槽　馬槽のごとし。其造法は。桶を製すごとし

盥水桶四面　源列の仕方なり、本門なり

小戒とふ

● 木杓　食助　● 撥火杖　源列の本仕方

● 簾一節を編こむなり。大なるは尺五寸なり

八三寸・五寸・四寸・三寸・二寸・一寸

● 燈盞　石を鑿て中を空し油を鳥脂なり

仏は異木皮のいとをもちいる

● 敷硯一面　● 禿筆二枚　● 墨屑一塊　● 檀紙二帖小倒

● 日別仏のもの　● 遮洋紙を幣帛とす

● 釣竿　● 釣糸　● 鉤　竿は源列の仕方と合ふ。糸は異木の皮を熟して交ぜ。鉤は故釘を磨て勾曲す

● 筵　薦　ともに異木皮の編なり。竹を編成用船の如し。筵は六扇を載る筵なり

船材　大工職のもの[illegible]
桜樫椿の類[illegible]
長四尺[illegible]

艪五張　[illegible]

大坂船[illegible]の[illegible]四張[illegible]

布帆一張　常[illegible]

[illegible]

木槌一門　[illegible]

縱小長[illegible]
[illegible]
[illegible]

櫂一把　[illegible]

纜二房　[illegible]

[illegible]

[illegible]

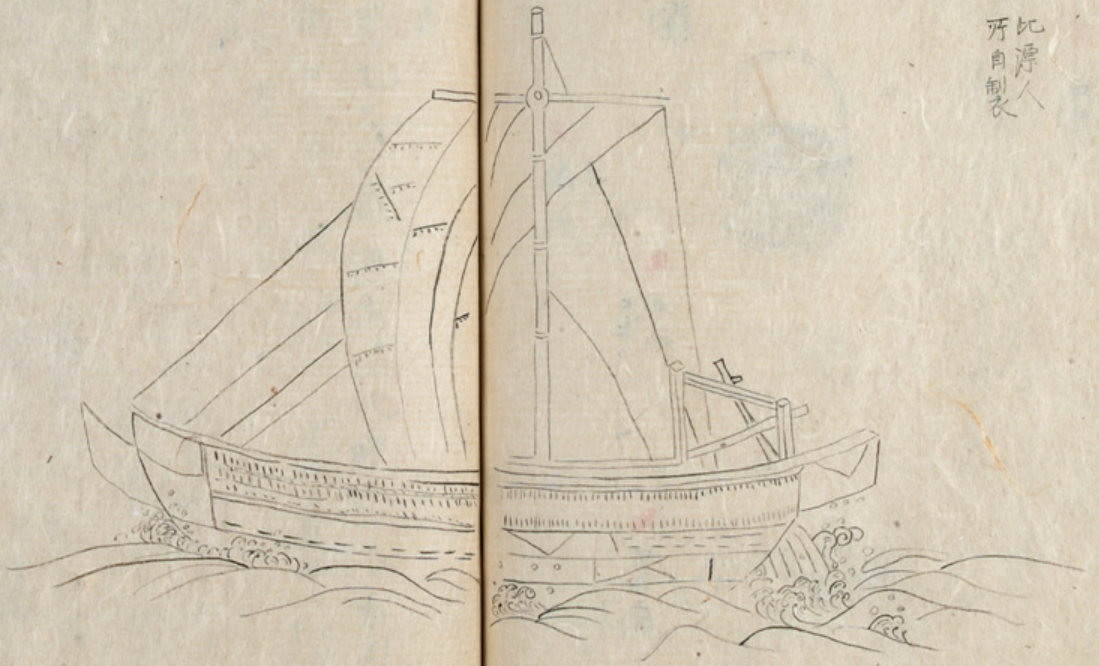
洋船一隻　長六尋中間の幅一尋半八分。その材料は百六十餘枚を接ぎ合せ縱横斜正共に殷一樣にけずり完造したり。

手斧一握

釘鑿

鉄算子

屠刀
鐵槌
錐
籠
木杓
墨壺



洋船

此源人所自製

念名

天明五年乙巳の歳漂流。土佐鏡川の人 赤岡浦。松屋儀七船。四人乗一艘 内三人病死 水手長平。土佐の人 丁巳歳三十六ほど 寛政九年 ようて。安永十三年ようて

天明七年丁未のとし 漂流。摂津大坂北堀江。亀次郎船十一人乗一艘。内三人病死 船長儀三郎 肥前鍋島の人 丁巳歳四十四 今年寛政九年 ようて五月 十一年下略同 機師久七 伊豆の人 歳五十二 水手市之丞 加賀の人 年四十四 同久八 加賀の人 年二十六 同吉蔵 江戸霞川の人 年三十六 同清蔵 出雲国人 年三十五 同松兵衛 摂津大坂の人 年四十 同三之助 奥列南部の人 歳三十 同由蔵 越後の人 年三十五

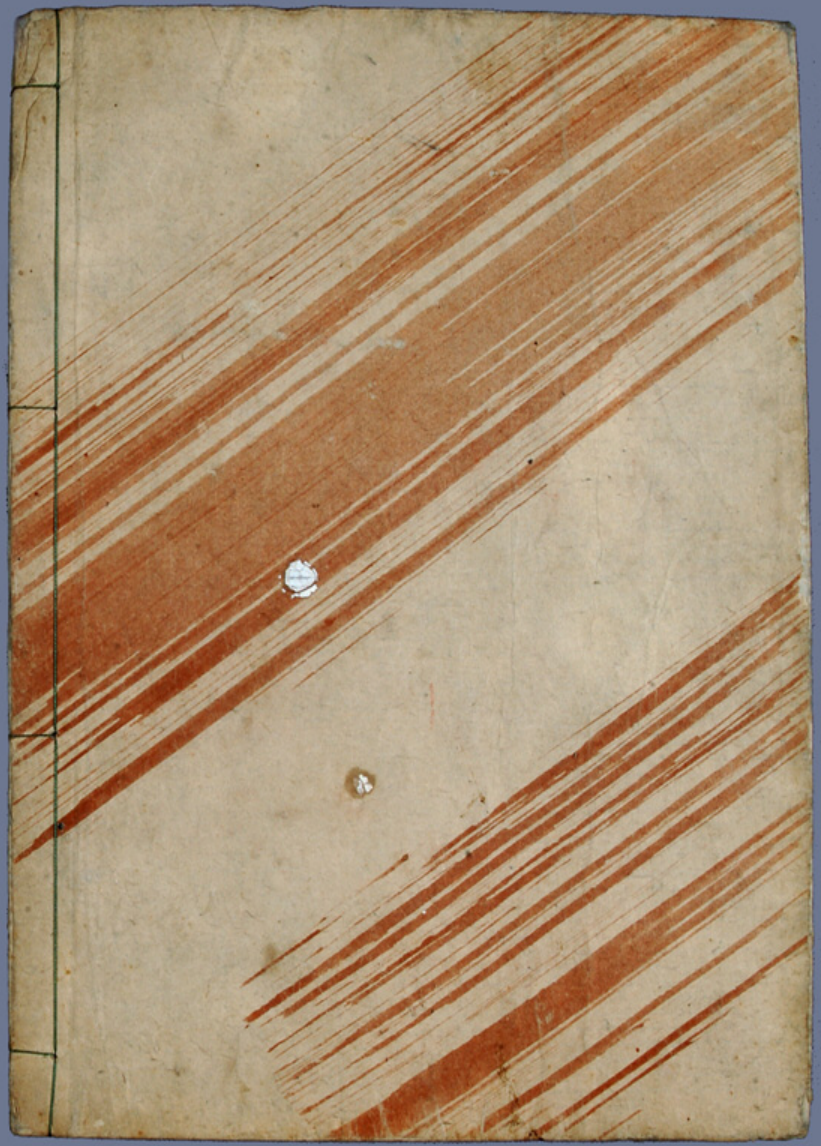
寛政九年己酉の歳漂落。日向諸縣郡志布志浦中山屋三右エ門船。六人來一艘内二人病死　船長栄右エ門。日向志布志の人　丁巳年五十二寛政九年ヲ云。土島九年下同　楫師惠左門　日向秋月の人年五十八　水手重次郎　日向秋月の人年五十三　同八五郎　日向志布志の人年三十八　通詞十四人也

無人島巻之下終

跋

世頃間迷夜の為に喧傳ラレ。上古の説を風ふ。故小封内の漂民を本邦の局中へ招一日共厩暑を風槃敢て。ラ。ラ。ラ

[illegible] 木田親字子盤と称する
小累日[illegible]拓[illegible]齡[illegible]として寛活し
[illegible]又復審問する[illegible]数四の[illegible]確的著
明[illegible]茅[illegible]綱[illegible]綱[illegible]として[illegible]
[illegible]由[illegible]を綜覈し[illegible]術を
區分し盤図[illegible]巧[illegible]拙[illegible]精[illegible]。他[illegible]図
[illegible]英[illegible]洒文。旦魚蛤の差を追
[illegible]復言[illegible]句[illegible]
[illegible]要[illegible]都[illegible]華[illegible]採実を遺[illegible]
[illegible]一二[illegible]

即其[illegible]撰[illegible][illegible]一書[illegible]聊以吳[illegible]
[illegible]。他[illegible]用に供する[illegible]。伯[illegible]大方の
[illegible]

寛政九年冬十一月　薩摩侍醫曹盤士改識